

金山町 議会だより

第182号

平成25年8月6日

発行 金山町議会

編集 議会だより編集特別委員会

〒968-0011

福島県大沼郡金山町大字川口字谷地393

☎ 0241-54-5341



7月24日に行われた3町村水泳記録会

〔6月定例会のあらまし 会期／6月14日～18日〕

(ページ)

6月定例会及び臨時会……………2～4

議会報告会を開催……………5

一般質問に6人登壇……………6～11

1億7,850万円を増額補正



安全面が危惧される大岐ダム

議案審議

6月定例会は6月14日から18日にかけて開催され、一般会計補正予算など15の議案が提案されました。しかし、国民健康保険税条例の一部改正と、国民健康保険特別会計補正予算については、町側の請求により撤回となっています。他13議案については可決されました。一般質問には6人が登壇し町の考えを質しました。

町外の浚渫土砂をなぜ搬入

問 大岐貯水池の安全対策として前面に土砂を盛ることに異論はないが、浚渫土砂が町外からの搬入が予想される。町内河

川の浚渫土砂についても処分場に苦慮している状況であり、町の考えは。

答 災害後の堆砂状況について、ほとんどが減少していますが本名ダムについては堆砂が増加しています。

これは、上流の滝ダムからの堆砂が流れ込んで来たという推測もされる

ところです。将来的に金山町に影響を及ぼすおそれのある、滝ダムの堆砂処理も金山町の安全対策と考えます。

問 搬入する土質がヘドロ状では雨による流失等安全管理に問題がある。施工方法も含め万全を期す必要があるのではない

答 砂利質で河川工事や災害復旧に流用できる良質な堆砂土砂の搬入と、安全な盛土工事の実施、施工後の管理についても、電源開発で実施していくことで話し合いを進めているところだ。

着ぐるみ作製目的は

問 備品購入費にキャラクターの着ぐるみ作製の計上になっているが、作製の目的と、備品購入ではなく内容的に委託料で計上すべきではないか。

答 東日本大震災復興基金に積立てた、ブランドイメージ回復支援市町村交付金を活用してキャラ

どこを行う圃場均平

問 圃場均平の委託料として、645万3000円が計上されている。事

クターグッズを作成、登録を行うものです。それにより着ぐるみを作って震災による風評被害の払拭、復興、併せて洪水災害からの復興を目指すものです。

着ぐるみは特注品ではありませんが、購入後町の備品として管理していくということから、備品購入費として計上いたしました。



復旧工事が行われている本名下タ原

業の内容と施工箇所、予定面積はいくらか伺う。

答 災害復旧については、原形復旧が原則ですが、豪雨災害からの復旧後の水田耕作を進める中で、均平作業実施の要望がありました。

平成25年度中に本名下タ原地区の農地災害復旧事業が完了するため、それに合わせレーザ光線を使用する機器を活用し実施する計画です。

災害復旧を実施した全地域の田んぼを対象とし、合計で17・5ヘクタールを想定しています。そのうち下タ原地区の面積は11・12ヘクタールです。

協議を重ねて設置を 真空凍結乾燥機

問 真空凍結乾燥機・粉碎機の購入設置で2620万円の予算が計上されている。前回、国補助事業に非該当となり予算を削除した経過がある。今回、東日本大震災復興基金繰入金により予算措置されているが、国の補助制度の中で購入すべきではないか。

答 町では1次産業を中心として、2次産業、3次産業との連携による6次化を目指す一つの切り札としてこの設備の導入を考えています。

と考えます。大震災からの復興を目指す意味からも、東日本大震災復興基金の目的にも合致していると考えています。

問 旧横田中学校へ設置し、管理体制はどうするのか。一般市民の利用は可能なのか。

答 株式会社奥会津金山大自然に管理業務を委託する考えです。一般の町民からの希望を受け付け、職員が機械の操作を行う計画です。

問 これだけの設備を町で購入するには、使用目的を明確にした要綱や、委託契約書の案を作成し全員協議会で協議した上で予算執行するべきではないか。

答 6次化により総合的な町の産業を興し、中核となるのが株式会社奥会津金山大自然であると考えています。

早急に事業を展開することが必要と思いますが、再度、みなさんにご相談申し上げたうえで事業を進めてまいります。

真空凍結 乾燥機って？

食品や原材料を急速に凍結し、水分だけを取り除いて乾燥させる機械です。この機械を使ってできるのがフリーズドライ製品です。



多くの稚魚が放流された野尻川

アユ稚魚代は 金山町のみか

問 野尻川のアユ稚魚代、132万3000円が計上されている。事業の内容と、野尻川漁協は金山町と昭和村で構成されているが、昭和村での負担はあるのか伺う。

答 釣り客の減少や、旅館、民宿へ提供するアユの数量も少なくなっているため、町内の野尻川に町独自で稚魚の放流を行うもので、昭和村の負担はありません。

大幅な税率アップ 国保税条例を撤回

今定例会に提案された、「金山町国民健康保険税条例の一部改正について」及び「平成25年度金山町国民健康保険税特別会計補正予算(第1号)」については、町長から議案撤回の許可の請求がありました。金山町議会では、2件について追加日程として審議し撤回を許可することに決定しました。

急激な国保税の増額に對して議案審議が行われる中で、副町長から「再検討を必要とするため撤回したい」との説明があり決定いたしました。

特定地域生活排水処理事業特別会計 合併浄化槽の設置基数は

問 浄化槽設置設計632万円。浄化槽設置工事が1500万円の補正予算が計上されているが、今年度の設置予定は何基になっているか。そのうち本名地区の件数は。

答 本名地区では今年度計20基、設置が1基です。また、設置工事費の1500万円は、本名地区の共同排水管設置工事を実施するものです。

金山町教育委員会委員 滝沢敬樹氏に同意

任期満了となる町教育委員会委員横田敏宏氏の後任として、滝沢敬樹氏(田沢・61歳)を選任することについて同意しました。任期は、平成25年7月1日から4年間です。



共同排水管が設置される本名地区

3月27日 第3回臨時会

保養センター指定管理 (株)会津かねやまに1年間

平成25年第3回臨時会
は3月27日に開催され、
3月定例会で撤回された
保養センターの指定管理
者の指定など、提案された
5議案が可決されました。

専決処分に関する承認
については、川口字栗ノ
牧地内の土砂災害への対
応に伴う予算措置を行っ
たことについて、議会で
承認されました。

金山町災害対策基金条
例の一部改正については、



今年度限りの保養センター

平成25年第4回臨時会
は5月17日に開催され、
専決処分に関する承認に
ついてと一般会計補正予
算の2議案が提案され可
決されました。

専決処分については、
災害復旧に伴う繰越予算
の処理と、地方税法の改
正に伴う金山町国民健康
保険条例と金山町税条
例の一部改正についての
内容です。

補正予算では、栗ノ牧
地内の災害対策に関する
ことと、中川地区に予定

中川に建設の集合住宅 町直営に予算組み替え

5月17日 第4回臨時会

正予算は、国補助の対象
から外れた真空凍結乾燥
機関連の2920万円の
削除や、財政調整基金へ
の積立1億5794万円、
災害対策基金への積立1
億5000万円などです。

平成25年度一般会計補
正予算は栗ノ牧地内土砂
災害の、4月以降に関わ
る経費等の計上です。

反対討論

方向性が目まぐるしく
変わり過ぎる。先を見通
せないやり方であり、主
導の方法に問題があるた
め反対する。

採決

採決の結果賛成7、反
対2で可決されました。

している集合住宅につい
て、かねやま福祉会で建
設し町で購入する当初の
予算組みを、町直営の建
設に組み替えるものです。

問 集合住宅を、町直営
事業とした経過と理由は
何か。

答 かねやまホームの増
床に伴う職員住宅の建設



オープン前に新しい施設を視察

オープン前に施設を視察 道の駅建設調査・研究特別委員会

道の駅建設調査・研究
特別委員会（五ノ井清二

委員長）では、オープン
を間近に控えた道の駅・
奥会津かねやまの視察を
4月23日に行いました。

この日は、広々とした駐
車場や、県で建設したトイ
レと情報提供の場所とな
る施設。改装されたこぶ
し館の中を視察しました。

計画があり、町の住宅整備
事業を進める意味でも効
率的な展開が出来ると思
え、当初予算で計上いたし
ました。かねやま福祉会で
2棟を建築し、1棟を町が
購入するという計画です。

グループホームの隣に
町営住宅を建設



参加者と活発な意見の交換 3月議会から議会報告会を開催



玉梨・八町地区で行われた議会報告会

金山町議会では、今年の3月議会終了後から議会報告会を開催しています。多くの町民のみなさんに参加いただき、活発な意見交換が行われています。

議会や委員会活動の状況を地区のみなさんに直接報告・説明を行い、みなさんからのご意見やご要望をお聞きすることが大きな目的で、議会改革の一環として考え取り組んでいます。

定例会終了後に2地区で開催しています。3月の議会報告会は、玉梨・八町地区と大塩地区で開催しました。今回はそこに参加された方々の声を紹介します。

この報告会は地区からの開催要望により対応もいたしますので、各議員または事務局までご連絡ください。



渡部 慎さん

日頃私は、町議会と地区住民との間には距離感があり、議会の活動に対しては必ずしも関心も高く感じておりませんでした。今回の議会報告会は初めての開催であり、大勢の参加を期待してまい

**地区の要望等
互いの意見確認できた**

渡部 慎さん（大塩）



玉梨・八町地区の議会報告会

**傍聴に行けない
人にも良い機会**

谷ヶ城雄司さん（玉梨）

各地区に分けた議会報告会が4月に開かれ、多くの住民の方の参加があり活発な意見が出ました。私は、議会傍聴に一度し

が行ったことがありませんが、今回のような各地区に出向いての報告会が行われることは、日ごろ行けない人にとっても大変良い機会だと思います。

現在、当地区では保養センターの改築が大きな関心事ですが、より多くの町民が利用し易く、親しみ易い施設が出来るように、町行政と議会と住民とで話し合って進めてもらいたいと思います。

たが、事前のPR不足もあり区民の参加が少数であり残念な結果ではありましたが、報告会は議会の活動状況について各議員から直に報告、説明を受け議会の動きが多少なりとも把握できたこと、又住民からの意見、要望について直接対話し、互いの考えが確認できたことは有意義でありました。

当大塩地区では、温泉の災害復興、合併浄化槽の設置等課題が山積しており、その解決に向けて議会の協力をお願いし、今後も継続して開催されることを望みます。

**町観光施設を論議する
特別委員会を設置**

金山町議会では、観光施設運営整備研究特別委員会を3月定例会で設置し、6月3日に第1回の会議を開催しました。

東日本大震災や新潟・福島豪雨災害の復興に向け、交流人口の拡大が町の重要な施策と考えています。そのために、町内の老朽化した施設の整備や更新とともに、管理体制の充実を図り、町を訪れる人たちの満足度を高め、交流を推進する施設づくりを論議するのが大きな目的です。

第1回の委員会では、保養センターに代わる新しい施設の計画について、現在の進捗状況を町側から説明を受けました。

これからは、新施設の計画はもとより、オープンした道の駅の充実等論議していく予定です。

委員会には10人の全議員が所属し、委員長に五ノ井清二氏、副委員長を五ノ井義一を選任しました。

『町長の考えるすばらしい町とは』

町民が支えあって生きて行く共同社会―町長



横田正敏議員の 一般質問



放課後の子供たちを見守るゆうがたクラブ

問 平成24年3月定例会の一般質問の答弁で「私の言うことを聞いていたければ、すばらしい町になると思っている」と言われた。このことについて町長の考えを伺う。

町長 が考えている「すばらしい町」とはどのような町か。その実現の可能性はあるのか。

答 町長 まず何といつても安全で安心のできる

町であること。働く場があること。そして町民がそれぞれ支えあって生きていく、いわゆるソーシャルビジネス共同社会の町を創造しています。

実現への可能性については、今までの生活意識を転換するよう導いていく必要があります。大局に立つて小異を捨て、意識を推進する必要があると考えています。

問 すばらしい町を実現するための今後の課題は何か。

答 町長 「自分の家は自分で守る。人に迷惑をかけない」という考えが町民にはあったかと思えます。現実的にこの日本社会、地方の社会は自分だけでは頑張り通せません。高齢化、豪雪の中で、お金や財産があろうと自分一人では安全で安心な町にはなりません。お互い支えあって助け合っこそ本当のすばらしい町

が出来ると思います。

問 金山町が県内で、子どもの数の割合が一番低い町になったのは残念である。少子化対策に問題はなかったか。町の年齢別人口構成を見ると、将来町の存続すら危ぶまれる。町を存続させるためには、若者が定住し、子どもが誕生し、定住するという町づくりが最大の課題である。

すべての英知を結集して対策を立てるべきではないか。「子育て応援条例」の制定も必要ではないか。

答 町長 子育て支援対策として町では、18歳までの医療費の無料化や、ひとり親世帯の、親子を対象とした月10000円を超える医療費助成。また、保育所での午後6時30分までの延長保育や1歳からの未満児保育等を行っています。少子化対策としての成果は見えていま



少年少女球技大会

せん。

少子化に対し恐怖心を抱いて町の将来を考えていく必要があります。

町では、工場誘致により1次産業の基盤を作るために、株式会社奥会津金山大自然を立ち上げました。今年から地域おこし協力隊を全国から募集し、現在2人が大自然で働いています。将来的に町に定住し農業を営みながら都会の人たちとの交流の場を作っていたきたい。それが6次化につ

ながると考えています。

子育て応援条例の制定も踏まえ、みなさんといういろいろな形で情報を共有し、必ず原案としてみなさんにお示しいたします。

問 若者の仕事場づくりも課題である。過去3年川口高校卒業生が、地元にも一人も就職していないのは残念である。固定観念にとらわれず、発想の転換をはかり、働き場の創出に努力すべきではないか。

答 町長 ものづくり高校として成功した例もあると聞いています。町にあつた多品種少量でもブランド品を目指す。その原点は、この田舎が好きで、金山町が好きで大自然とともに生きようとする人間づくりであると思っています。こういったことを、高校生のみなさんとも話し合いをしながら対応していきたいと思っています。



流失したJR鉄橋（大塩）



奥高伸議員の 一般質問

『JR只見線の早期復旧見込みは』

地元として先頭に立って取り組みを―町長

問 一昨年7月の新潟・福島豪雨災害によりJR只見線も三つの橋梁が流失するなど大きな被害を受け、会津川口駅～只見駅間は未だ不通の状態であり復旧の見通しすら立っていない。住民生活への影響はもとより地域経済、観光等にも大きな影響を及ぼしている。JR只見

線の全線早期復旧について町の認識、考えを伺う。復旧へのJR東日本の考えは。

答 町長 JR東日本の説明によれば、「只見線の不通区間の復旧の見通しは全く未定である。復旧には85億円の工事が必要であり工事期間は4年以上かかる」と明示さ

れました。残念ながら、積極的に只見線の復旧工事に取り組み姿勢は感じられませんでした。

問 県の考え、取り組みは。

答 町長 県は早期復旧を目指していく考えであり、関係機関に要望活動を行っていきます。工事が用が明らかになったことを受け、関係団体をメン

バーに組織強化を行い、只見線の利用促進と復旧工事費用の支援のあり方を検討していく予定です。

問 只見線沿線自治体の取り組みは。

答 町長 只見線活性化対策協議会でも早期復旧を目指し、沿線自治体としてそれぞれの役割を果たしていくことになる

と思われます。

問 町としての取り組みは。

答 町長 不通区間を持つ地元町として、先頭に立って早期復旧に向けた取り組みが必要と考えています。各種事業での利用促進や、イベント開催時における利用者への特典配布等、様々な事業を展開していく考えです。

『どう取り組む川口高校振興対策』

期待・信頼される実績づくりとPR―町長

問 川口高校は地域唯一の高等教育機関であり町にとっても欠くことのできない学校だ。ここ2年間は入学生徒数が定員の半数に達せず分校化が懸念されていた。しかし今年の入学生は学校、地域の取り組み、町の支援等により58名となり分校化の危機を脱したかに思えるが今後の学校振興には

課題も多いと思う。町の考えを伺う。生徒数確保の取り組みについて。

答 町長 毎年50人程度の安定した入学生となるには、地域や他市町村の保護者から期待、信頼される教育の実践と実績を作る

ことが大切です。そのためには物心両面から支援していく強力な体制づくりと継続性が必要です。入学

希望者や保護者へ希望と与える川口高校のPR活動が大切と考えています。

問 入寮生徒増対策、寮整備について。

答 町長 県教育委員会に寮の増築を要望していくことが重要となりますが、来年度の入学に向け緊急課題として取り組んでいく考えです。

問 町の財政支援の継続

について。

答 町長 川口高等学校への補助金は今後も継続していきます。

問 地域の特性を考慮した存続要望が必要ではないか。

答 町長 地域の実情を踏まえ県のしっかりと支援、対応がなければ厳しい状況になることを訴えていきたいと思っています。



特殊機械で引上げ工事が進む旧西部橋

青柳靖美議員の 一般質問



『山村振興調査会の最終報告はいつに』

詳細を記述し再提出願う―町長

問 豪雨災害によるダム災害から、2年。山村振興調査会の報告と今後の対策について伺う。

再発防止対策に重要な山村振興調査会の最終報告は。

答 町長 6月3日の報告会に提示されたものが最終報告となります。ただし、山村振興調査会側から、さらに分かりやすく詳細に記述したい部分がある

旨の発言があり、再提出いただいたものが公表用の最終報告書となります。

問 本名ダム直下の流失家屋地下の埋もれ木の調査はしたか。結果は。

答 町長 調査を行っても被災の原因がダムにあるという直接の因果関係の証明にならないと考え

るため、調査の必要性は乏しいと考えています。

問 落橋した旧二本木橋、JR第6、7橋梁、西部橋、旧田沢橋などの引上げ工事は。河川法との整合性は。

答 町長 旧田沢橋は11月中旬までの工程です。旧西部橋は、長岡国道事務所により年度内完了予定です。旧二本木橋は引上げできない部分を存置し、流失防止のためにブ

ロックを設置します。あわせて河川の断面を確保する河道の掘削工事も計画されています。JR橋の撤去工事は、河川管理者と

JRとの間で対応を協議中とのことです。各撤去工事は河川法に則り、河川管理者の指示に従い、適正に進めていかなければならないと考えています。

問 JR橋が落橋した調査報告書は示されているか。事故調査報告書を開示・請求し、合同で対策をとるべきかどうか。

答 町長 JR側に確認したところ報告書の取りまとめはなく、今後も作成、公表の予定はないと聞いています。

問 復興基金の支出状況、今後の事業内容、事業期間の延長は。

答 町長 住宅再建支援事業として、1億4900万円を支払っています。基金事業としては、かねやまホーム職員寮建設補助金2000万円、公営住宅建設費用5970万円を

予定しています。事業期間の延長は、地域の早期復旧・復興を目指し設置され

た基金であり、難しいという県の説明がありました。

問 河川整備計画の進捗状況・内容、計画高水量の設定は。

答 町長 主要地点での計画高水量については、まだ決定されていないと聞いています。決定に伴い只見川圏域河川整備計画協議会及び町民を対象とした説明会を開催し、

来年3月までには個別の事業箇所を決定したい意向であると聞いています。

問 堆砂率0%、同100%の解釈、堆積土砂の浚渫工事の現状と計画は。

答 町長 一般に堆砂率とは堆砂量を総貯水容量で割った値です。浚渫の現状は宮下、上田、本名ダム各調整池で24年度までに82万立方メートルほどの浚渫を行っています。

今年度は4万3000立方メートルほどを行う計画と聞いています。2ダムが水利権更新

時期を経過。県の意見聴取は。

答 町長 現在福島県から町側に対し意見照会があり、議員のみなさんのご意見を伺った上で県に回答したい考えです。

問 町民が安心して生活できる施策を構築すべき。被災者支援・再発防止対策、協定書の締結など必須と思うかどうか。

答 町長 予算規模や行政の役割分担などの観点から、関係機関の協力を得ながら実施せざるを得ない状況ですが、できる限り町の意向を反映できるように考えて行きます。

問 メモリアルデイの計画は。

答 町長 今年度は町民を対象とした防災に関する講演会を予定しています。

青柳議員からはこの他に「原発震災対策について」の質問がありました。



熊の被害にあったトウモロコシ畑



長谷川菊夫議員の 一般質問

『被害に遭う前の熊対策を』

捕獲わな6基を増設―町長

問 熊出没のニュースが新聞に載らない日がないくらい熊が増えている。

金山町でも人的な被害まで発生している。被害に遭う前の対策はどう考えているのか伺う。

答 町長 今まで町が取ってきた対策としては、人家近くに熊が出没したときや、人的被害が及ぶ

恐れがある場合には有害鳥獣捕獲の許可を得て、わななどによる捕獲を行ってきました。また、花

作物への被害防止として電気柵設置への助成などを実施しています。

火等による追い払い、里山付近の刈り払いによる緩衝帯の設置、夜間に光を発する機械の設置、柿の木や栗の木など放置され熊を誘引するおそれのある放任果樹の伐採、農

今後の対策については、先日開催されました金山町鳥獣被害防止対策協議会で協議いただき、今までの対策の継続と更なる対策を行いながら人身被害や農作物の被害防止に努めて行きます。

具体的には、熊の個体数の調整の観点から捕獲用わなを6基増設します。

問 人的被害が起こるまえの事前の対策を。

答 町長 鳥獣保護の観点から規制もあり、事前の対策等なかなか出来ない状況ですが、地域おこし協力隊や町職員に猟銃免許取得を呼び掛け、迅速な対応をしていく考えです。

『集合住宅の整備を早急に』

今年度中川に単身用集合住宅建築―町長

問 前々より集合住宅の必要性を質してきた。25

を伺う。

答 町長 今年度は中川地区に単身用の集合住宅

設まで行くと町長は答弁されている。現実が見えないが、どう考えているのか伺う。

また、26年度整備予定の集合住宅建築のために、今年度に測量設計を実施

必要と思う。近隣の三島町、昭和村では特別養護

高齢者向け住宅については、こういった希望があるか意向調査を実施し

営されている。町の考え

また、老人向け住宅も必要と思う。近隣の三島町、昭和村では特別養護老人ホームに隣接して運営されている。町の考え

高齢者向け住宅については、こういった希望があるか意向調査を実施し

長谷川議員からは他に「川高寮問題について」の質問がありました。

住宅対策は最重要課題と認識し、近隣町村にも

長谷川議員からは他に「川高寮問題について」の質問がありました。



周辺に影響を及ぼす恐れのある廃屋も

高橋信彦議員の 一般質問



『川口高等学校寄宿舎不足問題にどう対応』

町として緊急的に取り組む―町長

問 県立川口高等学校の今年の入学者は、関係者の努力により58名に達し、分校化の危機は一時先送りされた。同時に、新たな宿舎不足の問題が発生している。

として進まず、解決に至っていない。

来年度、町としても多くの入学者が希望する中で、寄宿舎不足の問題をどのように考えているか伺う。

答 町長 福島県に対して寮建設の要望を進めていくことはもちろんですが、町として寮不足への

緊急対応が急務となってきましたので、解決に向けて具体化するよう取り組んでいきたいと考えています。

問 川口高校の存続問題には町の活性化やJ R只見線の存続問題も関連してくる。

答 町長 川口高校が活性化すれば通学でJ Rを利用する生徒が増えてきます。利用者が増えればJ R側に、しっかりと対応をいただけるという

大きな関連があると考えています。旧横田中学校利用のご提案ですが、建物の耐震性に問題があります。J R利用も大切ですが、学校からの通学距離が長く生徒さんや保護者の方々にご理解いただけるかなど、難しい状況と考えています。

『条例等の整備で廃屋対策を』

行政指導等が出来る態勢を研究―副町長

問 近年、金山町では廃屋が目立つようになってきた。多くは放置されたまま、中には隣家に被害を及ぼす事例さえ出ている。町民の安全を守る立場からどのように対処されているのか伺う。

答 町長 空き家管理は、所有者の責任で行っていただくのが原則です。過去には、空き家からの落雪で、自動車被害を受

け所有者が補償した事例や、隣家に被害を及ぼしたという事例も聞いています。空き家となり、隣の家などに危険を及ぼすようなことがある場合は、所有者へ連絡しますが、対応していただくのは所有者となります。

問 困っている住民を救うために、条例等の整備を研究していく考えです。

答 町長 平成19年に空き家調査を実施し、件数、不在家屋の件数、連絡先は把握しているのか。

問 困っている住民を救うために、条例等の整備を研究していく考えです。

答 副町長 条例等を整備し町が所有者に勧告出来るような制度も想定されると思います。状況により最終的に代執行も考えられますが、他の事例に波及する心配もあります。今の段階では所有者に対し行政指導が出来るような、条例等の整備を研究していく考えです。



堆砂処理が行われている大志地区の対岸



黒川廣志議員の 一般質問

『町が豪雨災の損害賠償請求をする考えは』

デメリットが大きく訴訟の考えはない——町長

問 7・29豪雨災害は、上流の大型ダム放流、ダム操作、電力会社の連携など私達被災者からみても多くの疑念が解消されていない。また、当日、本名ダムの管理者は、早々とダム管理を放棄し避難している。私達流域住民が安全・安心に暮らすための検証は全く不十分で

ある。9億円の基金も被災者の生活再建には程遠い内容だ。浪江町長の例に習い、町長が被災者の代理人として発電事業者に損害賠償請求を行う考えはないか、伺う。

答 町長 町として損害賠償請求をする考えはありません。請求を起こす手法は、町あるいは住民

に対する負担等デメリットがあまりに大きく、採用できるものではないと判断いたしました。

国・県の公式見解が、災害は自然災害と判断しているところから勝訴の見込みが難しいと考えられること、判断まで長い時間を要し、被災者に早期再建支援を目指す町の

方針とは合わない手法といえる等が理由です。

結果として、只見川流域豪雨災害復興基金の枠組みの中で、大きな課題であった被災者生活再建と再発防止を進める道を選択しました。それにより、過去最高レベルといわれる1世帯1000万円を上限とする住宅再建

支援事業を早期に実施することが出来ました。

また、河川整備計画の策定、ダム堆砂の浚渫、洪水期の水位低下による放流量低減などの災害防止に向け取り組んでいくとされており、既に十分な成果が町と住民にもたらされていると考えています。

『調査報告書になぜ再考を求めた』

県結論との相違点について説明を求めただけ——町長

問 報告会の席上で山村振興調査会の代表より、金山町から報告書に対して、再考を求める文書が届いたことを明らかにした。その文書では「浸水被害はダム設置者の責任」との表現に対して町は「新たな根拠を示すこと」と再考を求めているが、どうしてか。

答 町長 正確には県と

山村振興調査会の調査で同様の実験、試算を行ったと思われるが、結論が異なる部分についての説明をお願いしたところです。

問 堆砂対策については「各ダムの異常な堆砂が洪水位を高め浸水被害を激化し、その被害を増大させた」との表現に対して現在の堆砂量から妥当

な表現であると考えますが、どうして再考を求めたのか。

答 町長 「長年にわたって放置されてきたことは河川管理上ゆゆしき問題と言える」という表現について、正確には「長年にわたって放置されてきたことは河川管理上ゆゆしき問題」と言える（滝ダムにおいては、近年、浚

渫が始められていた。）——という部分があり、町としては、電源開発の滝ダムについて浚渫が行われていたことに触れるのであれば、浚渫量が少量であっても、東北電力のダムについても行われている事実があれば、同列に触れざるを得ないのでないかという趣旨で取り上げたものです。

渫が始められていた。）——という部分があり、町としては、電源開発の滝ダムについて浚渫が行われていたことに触れるのであれば、浚渫量が少量であっても、東北電力のダムについても行われている事実があれば、同列に触れざるを得ないのでないかという趣旨で取り上げたものです。



「実りある支えあいの町に」

今年も天候不順なのか入梅になっても雨が少ない日が続いたり、東北地方で降り出しても関東地方は水不足となっている。朝などは肌寒いこの頃、秋の実りが豊かであればよいと祈るばかりである。

今春の川口高校の新入生は58人を迎えることができ、本校としての存続に明るい光が見えたといえる。関係各位のご努力に敬意を表したいと思う。川口高校の魅力は寮があることと考える。高校生が、楽しい寮生活が送れるよう町をあげて取り組まなければならない。

熊のニュースが町内はもちろん、新聞テレビでも後を絶たない。近隣町村でも住宅地に出没し、人的被害も出て大きな問題となっている。花火等の追い払いや緩衝帯、電気柵での防御も必要とは思いますが、捕獲駆除を望みたい。保護を訴える声も聞かれるが、地域の人たちが安全な生活を送ることを考えれば、おのずと選択肢は出てくるのではないかと思える。

金山町は県下一の長寿高齢社会である。高齢者世帯にとって、冠婚葬祭をはじめとして年金生活を圧迫していることも見過ごせない。冠婚葬祭、法事等のお返し、特に病氣見舞いのお返しの廃止等、生活改善が求められる。各地区等での申し合わせが、町内全域に広がれば良いと思う。地域の方々の声に耳を傾けてほしいと思うが、町民の皆様の考えをお聞かせいただきたい。

天候は不順であっても、支えあいの町が実りを得ることに期待したい。

(長谷川菊夫)

羽生市議会が来町 豪雨災害状況を視察

6月26日、27日の2日間、友好都市羽生市議会の9名の議員が金山町をお訪れ、町議員と交流を深めました。

今回は平成23年新潟・福島豪雨災害の被害状況や復旧の様子を視察することを目的として来町されました。

町側から被害概要を説明後、本名ダムの直下や仮設の二本木橋付近を視察し、復旧の状況をご覧いただくとともに、災害の凄まじさを実感されたようでした。



下タ原地区の状況を視察

ごあんない

次回の定例会は、9月13日ごろ開会の予定です。

一般質問は9月17日ごろとなります。

お気軽に傍聴においで下さい。

○役場1階の受付で「傍聴券」を受け取り
4階の議場においで下さい。

〔発行責任者〕 議長 長谷川盛雄
〔編集委員〕 委員長 奥 高伸
副委員長 青柳 靖美
委員 横田 正敏
委員 馬場 清次
委員 黒川 廣志
次回、金山町議会だより第183号は、10月下旬ごろ発行の予定です。